

関西大学

BEFORE

AFTER

～大学の主人公はきみたちだ！！～

大森 高橋 福塚 森田

関大 ビフォー→アフター

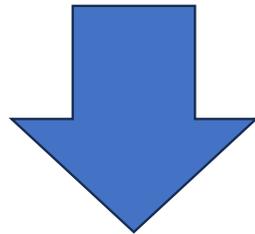
もくじ

- ・ 現状の課題 ————— 3,4
- ・ 改善案 – 履修上限の緩和 ————— 5
- ・ 新規案 ① – キャンパス間交流 ——— 6
② – 大学・地域間留学 ——— 7
- ・ 結論 ————— 8
- ・ 参考文献 ————— 9

現状の課題①

自分たちの学生生活の中で授業への主体的な取り組みが難しいと感じたという意見があった。

参考：関西大学「授業・学生生活に関する学生・教員アンケート調査」



- 関大の掲げる「考動力」を実現するには教育改革が必要ではないか
- 授業と課外教育、両方の視点から制度改革を提言する



学生参加型活動
(ディスカッション・プレゼンなど)の実施

率

2~3

割

関大 ビフォ→アフター

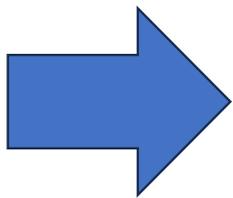
現状の課題②

他キャンパスとの繋がりの薄さを感じたという意見があった。



千里山キャンパス以外の所属学生が、千里山キャンパスでの対面授業を週1回以上履修していた場合、**千里山キャンパスまでの通学定期を申請できる**ということが、学生に周知されていない

参考：関西大学 2024年度学生生活実態調査自由記述部分に関する回答について



現状の課題①の内容も踏まえた上で、プロジェクト型学習などで千里山キャンパス以外に所属している学生との交流を増やしていくべきだと考える。

関大 ビフォ→アフター

改善案－履修上限の緩和

科目によっては受講できる単位数に制限がある

例) プロジェクト学習

…大学での学びや実社会に役立つスキルの獲得と資質・能力の育成を目的とした科目

現状:プロジェクト学習は4年間で1人2科目まで

GPAなど学位を参考に（学部・専攻内での）上位者のプロジェクト学習履修上限を緩和することで、受講生の学びに対する意欲を向上する

新規案①－キャンパス間交流

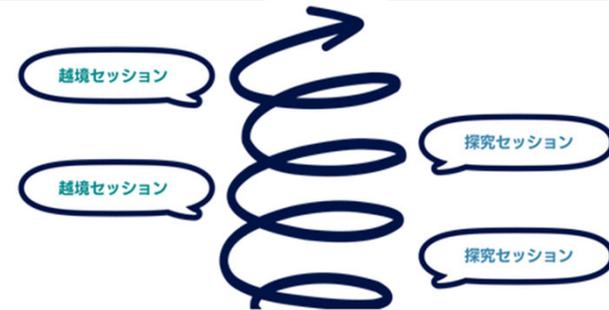


千里山キャンパス所属学生と他キャンパス所属学生との交流のため、プロジェクト学習やキャリア形成科目群などの柔軟かつ役立つ科目でハイブリット型（対面・オンライン）の実施をする。

< 桐蔭横浜大学 大学間越境学習プログラム >



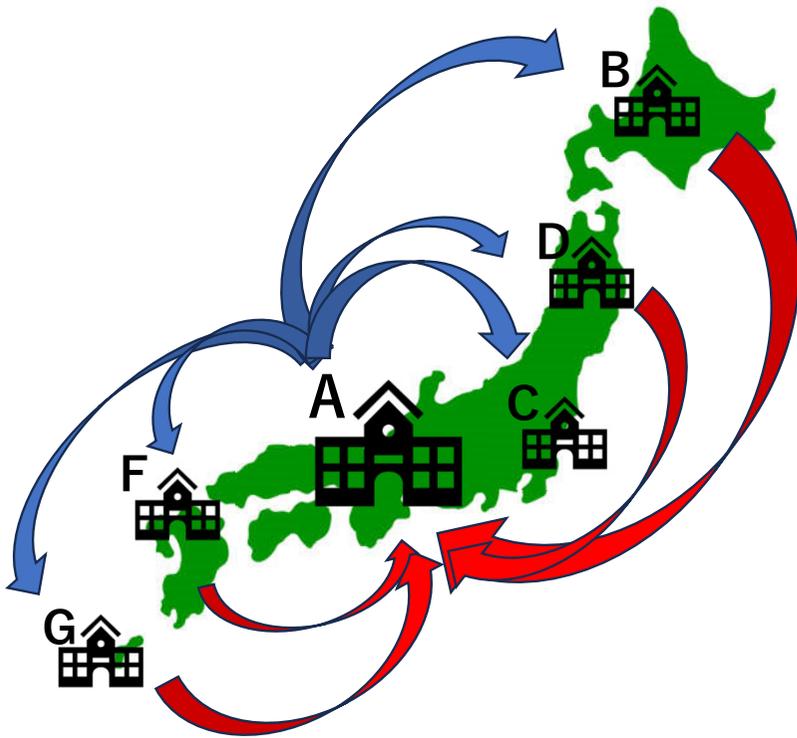
例：ビジネスデータサイエンス、人間健康、総合情報、社会安全などによる多方面の学部で交流



関大 ビフォ→アフター

新規案②－大学・地域間交換留学

1.国内大学間留学の強化



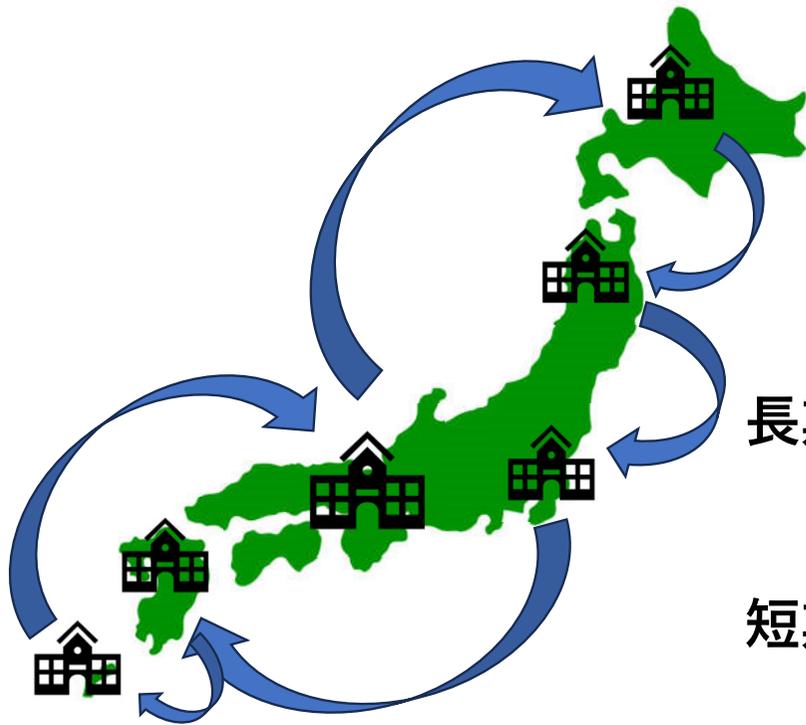
メリット

関東⇔関西だけでなく、地方の大学とも連携することで、その土地や大学の強みを生かして専門的に研究・学習を進めることができる

実際に関西大⇔法政大間で実施しているが、認知度は低い、実態がわかりづらい

新規案②－大学・地域間交換留学

2.全国横断型複数大学交換留学



メリット

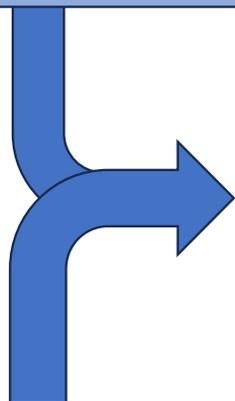
全国の提携大学を一定の期間で移動しながら各地ならではの研究・学習を進められ、大学としても他地方からの入学希望者の確保という側面で互いに利点が多い

長期：国外留学と同様ハードルは高い
→単位認定・費用負担などは手厚く

短期：長期休み期間などを活用し、参加しやすさを重視

今後の展望

履修上限の緩和により、未来につながる学びを
拡充し、「学びたくなる関大」を実現する



学生たちの主体的な取り組みを促進し、
「考動力」の実現につながる

キャンパスを超えた交流を活発化し、
「関西大学」としての新たな強みを生み出す。
また、学内のみならず、学外にも交流の輪を
広げ、関西大学の知名度を各地で上げる

参考文献

- 関西大学 学生生活支援グループ 2024年度学生生活実態調査自由記述部分に関する回答について
<https://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/support/assets/research/2024jittaichousakaitou.pdf> (閲覧日:2025/10/24)
- 学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学 InterCollegiate Cross-Boundary Learning Program ー大学間越境学習プログラムー
<https://toin.ac.jp/univ/education/icl/>